先進事例紹介

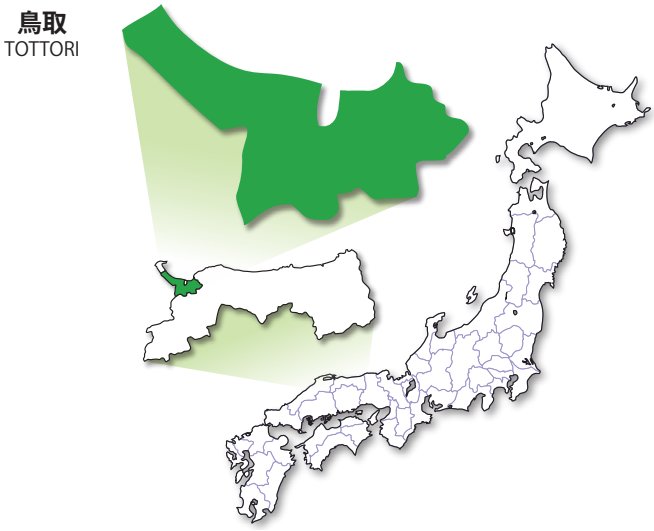
よなご消防団活性化プロジェクトの概要

～地域防災力の充実強化に向けて～

鳥取県　米子市防災安全課

1　はじめに

米子市は鳥取県西部に位置し、東には「伯耆富士」と呼ばれる国立公園大山、北に日本海、そして西には汽水湖として日本で２番目の大きさを誇り、ラムサール条約にも登録されている中海という、豊かな自然に囲まれた面積約132㎢、人口約15万人のまちです。



米子市街地の風景

弥生時代の大規模集落跡や古墳時代の遺跡も数多く発見されているなど紀元前からの歴史を持ち、江戸時代には城下町として繁栄し、その城下町に住む商人によって「商都米子」の礎が築かれました。

その文化や気質を受け継ぎながら、現在では、高速道路や鉄道、さらには空路・海路の要衝として「山陰の玄関口」の顔を持っています。

2　米子市消防団の現状

米子市消防団は、現在４ブロックのもと、28分団（うち女性分団１）、団員512名（うち女性分団21名）で活動しています。

現状では、定員の90％を超えるなど、その機能を満たしてはいるものの、平均年齢は47歳を超え、少子高齢化が進む昨今、より一層、若者や女性等の入団促進など消防団を中核とした地域防災力の充実強化に取り組む必要があります。

米子市消防団

3　よなご消防団活性化プロジェクトの概要

平成25年12月に施行された消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の中に、消防団は「将来にわたり地域防災力の中核として欠くことができない代替性のない存在」と規定され、消防団への加入促進、公務員の消防団兼職、学校教育・社会教育における防災学習の振興等が求められています。

本市は、平成26年度から鳥取県が取り組む「消防団を中核とする地域防災力強化モデル事業」の事業委託を受け、消防団の活動を発展させようと様々な施策を実施

していますが、その中でも主な施策３点を紹介します。

4　米子市消防団少年消防クラブの結成

地元消防団の活動や地域防災の重要性を若い世代に認識してもらい、学習を行うことのほか、将来の入団を促すため、平成26年８月に米子市消防団福生東分団傘下で小学４年生から小学６年生を団員とする少年消防クラブを結成しました。

米子市消防団少年消防クラブ

「自分のふるさとは自分たちで守る」という信念のもと、米子市消防団や県西部消防局の指導を受けながら、少年消防クラブ先進地視察や消火体験・規律訓練、夜間パトロールを行っています。

少年消防クラブは、全国に5,000を越える組織がありますが、消防団の下部組織としての結成は鳥取県内初であり、全国的にも極めてめずらしいものと認識しています。

5　米子市職員を対象とした消防団体験入団

米子市職員の消防団体験入団

平成23年に発生した東日本大震災や昨今の異常気象により、自治体職員が担う地域住民の安全を確保する役割が増している中、昨年８月に平成26年度新規採用職員を対象に地域防災力の中核という意識付けや消防団への加入促進を目的として、県西部消防局において小型可搬式ポンプの放水体験や訓練見学などの体験入団を実施しました。

6　女性分団の活動強化

米子市女性消防団女性分団は、主に広報・啓発分野を担い、幼稚園児から高齢者まで幅広い年齢層を対象に、地域に出向いて防災啓発教養「リスクウオッチ」や「ＡＥＤ指導」などで活躍しています。

また、女性分団独自で編み出した防災意識啓発ダンス「たのしんジャー」を市民へ披露するなど、防災学習の振興を行うとともに、女性分団の活動を広く市民にＰＲするなどして、女性消防団員の確保を見据えた活動を展開しています。

防災啓発ダンス「たのしんジャー」

7　おわりに

消防団は、地域密着性、要員動員力及び即時対応力を特性とする地域防災力の中心的な担い手となっていますが、少子高齢化、過疎化等の進展、被雇用者の増加等により、将来にわたり消防団員の減少や高齢化など地域防災力の低下が懸念されているところです。

米子市では、米子市消防団を「地域に根ざした消防団」、「市民に頼られる消防団」として発展させるために、今後も様々な施策に取り組んでいきます。